

地域社会の安全確保のために



全国町村会
会長 藤原 忠彦

我が国では、全国のどの地域においても、大規模地震が発生する危険性があるとともに、毎年のように台風や豪雨による水害や土砂災害が発生しております。また、都市構造の複雑化や住民ニーズの多様化等社会構造の変化により、近年の災害や事故は多様化及び大規模化の傾向にあります。予想し難い災害とその複雑多様化に対して、即座に対応できる防災体制の構築が求められております。

東日本大震災をはじめ、全国各地で地震や風水害等の大規模災害が発生した際には、消防団や自主防災組織が災害防御活動や住民の避難支援、被災者の救出・救助などの活動を行い、大きな成果を上げております。また、大規模地震の発生が懸念されている昨今、地域の総合的な防災力の向上が求められるにつれて、消防団などが地域住民の安心・安全の確保のために果たす役割もますます大きくなってきていると認識しております。

私の地元である長野県川上村にも、集落ごとに消防団があり、団員は現在276名で、条例定数に対する充足率はほぼ100%となっております。我が村は農業が基幹産業であり、消防団員もその多くが農業従事者で構成されております。地域のつながりが強い我が村では「消防団には入るもの」という伝統があり、農家の後継者として村に入ってくる若者も多いので、消防団の平均年齢は30歳前後と若く活気があります。自営業の農家の団員が多いため、火災が発生した際にはすぐに駆けつけることができ、火災に対する迅速な対応ができています。団員の意識も高く、技術も年々向上してきております。今年6月7日に行われた南佐久郡消防大会では、自動車ポンプ・小型動力ポンプ・ラッパ吹奏の全3部門で川上村消防団が3冠を達成し、県大会への出場を決めました。自分たちの地域は自分たちで守るという団員としての誇りを持ち、日々練習を積み重ねてきた成果が発揮されたと思っております。

また、消防団以外でも地域コミュニティの力が強く、平成26年2月の記録的な大雪で大きな被害を受けた際にも、幹線道路の除雪には自治会組織が活躍しました。農家にあるトラクターを使って住民自ら除雪を行ったので、比較的早く復旧ができました。農業や防災活動を通して住民同士のつきあいが長く続き、一つの目標に向かって皆が一緒に頑張ることで、住民の強い絆を生み出し、それがまた地域の防災力を向上させることに繋がる好循環を生み出しているのではないのでしょうか。

全国町村会では、7月に来年度の予算編成に関する決議及び要望を決定しており、その一つに、「町村消防の充実強化」を掲げ、消防設備の整備や消防体制の充実について政府及び国会に対して強力に要望しているところです。

住民の生命や財産を守るため、地域の防災を担う我々町村長に課せられた使命は極めて大きなものであり、今後とも、地域防災の中核的役割を担う消防団・自主防災組織の充実強化など、災害に強い地域づくりにより一層積極的に取り組んで参ります。